（別紙4）　　平成　25　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0992500090		
法人名	ミツイ商事（有）		
事業所名	グループホームえにし苑		
所在地	那珂川町谷川1609		
自己評価作成日	平成25年7月1日	評価結果市町村受理日	平成25年10月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会
所在地	栃木県宇都宮市若草1－10－6
訪問調査日	平成25年8月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

廃校跡地を利用し、田園風景が広がる閑静な地域の生活に溶け込んでいる施設です。 法人は、地産地消、職員も地元雇用をモットーに、職員の大半を地元で採用し、ご利用者様もサービス開始から馴染みの関係を築いております。職員は、施設での生活にメリハリをつけたり気分転換に園芸セラピーに取り組んでいます。、苑内の菜園では季節の野菜（ジャガイモ・玉ねぎ・サツマイモ・茄子・キュウリ等）の収穫を楽しみに季節の野菜の栽培を行い、収穫時は地域交流会等のおやつとしてふるまい好評を頂いております。また、苑内では、併設する小規模の利用者様とは行事以外にもいつでも交流が図れるように支援しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

当ホームは、元小学校校舎と敷地を利用し、建物の1階を改修して小規模多機能ホームと共に開設した施設である。元小学校とあって地域住民が行事等で集まる事が多く、地域とのつながりは厚いものがある。元校庭に菜園をつくり、ノウハウを持った職員と地域住民の協力により、季節の野菜をふんだんに栽培し、利用者の食事の楽しみとなっているほか、地域との交流会の際に利用している。また、地域の方が週3回グラウンドゴルフを行っており、利用者も参加や見学をして楽しんでいる。その他、地域の方が菊造りの手伝いに来てくれたり、2階の会議室等の利用をする等、常に地域とのつながりの絶えないホームである。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は法人の理念を掲げておりますが「めぐり愛、で愛・えにしを永遠の縁にしていきたい」を施設の理念に検討しております。	地域とのかかわりが大切との考え方から、事業所名とも関連する「めぐり愛、で愛、えにしを永遠の縁にしていきたい」が事業所独自の理念となるよう検討している。職員にも周知し、施設全体として取り組みを進めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治体に入り、道路清掃、ゴミ拾い、自治体の会議に参加している。施設前の校庭で週3回行われているグランドゴルフの見学は利用者様の楽しみの一つである。また、グランドゴルフの大会では施設も招待を受け参加させて頂いている。	地域に呼びかけ広い庭や空き室を利用し夏祭りを開催、200人以上の参加があった。また、小学生の訪問や農家から野菜の差し入れなどもある。近所のお年寄りの指導で菊作りに取り組んだり、地域の敬老会で職員が余興を披露したり、日常的に交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流の場では「認知症サポーター養成講座」開催、花の風祭り（那珂川町商工会主催）に参加し、苑の職員は認知症の寸劇をして理解に向けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議において外での日光浴の光景はうれしさを感じ見ていても微笑ましいと言われている。もっと中の様子を知って頂くように広報等でお知らせしたい。	運営推進会議は、利用者家族や自治会の役員などもメンバーに加えて、併設の小規模ホームと合同で定期的に開催している。充分に時間をとり、利用状況や運営に関する情報を提供したり、意見や要望等を得てサービス向上に活かしている。	安全安心な生活をサポートするため、議題に合わせ、消防や警察の出席や行事等で関連のある学校長等の出席も検討しているとのこと。実現を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月に一度開催の運営推進会議は併設する小規模と合同で行っている。メンバーは町担当者、地域包括支援センター・地域の有識者の方で、利用状況、活動実績等の報告を行っている。メンバーからは助言や提言を頂きサービスの向上に努めている。	町職員とは、運営推進会議での意見交換の他、請求事務や介護認定の更新時、利用者の状況報告や施設運営状況報告など、随時電話等も含めこまめに連絡を取り合い、連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	指定基準において、禁止の対象となる具体的な行為を勉強会やミーティングで理解を図っている。但し、利用者様の安全確保の為、居室掃き出し窓は防犯管理がされております。	元校舎という構造上、段差が多くある。安全のために居室等の掃きだし出口にはセンサーを設置し、小規模多機能ホームとの共用の玄関は安全のため、施錠している。言葉による拘束は職員の毎月の勉強会や毎日のミーティングにおいて注意を喚起し、職員が互いに注意し合える環境に努めている。居室が直線的に配置（校舎利用）されているため、見守りには細心の注意を払っている。	安全上の配慮から玄関ドアを施錠ボタンで対応しているが、身体拘束につながる恐れがあるため、見守り方法の工夫や職員の多い日中は施錠を解放する等、より細やかな対応で身体拘束をしないケアに取り組まれることに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	地域交流とは、連携を図りいつでも相談できる様な体制を整えている。事業所内では勉強会やミーティングを開き指定基準を図っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度等に関する勉強会を開き、職員の理解を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前にユニットの見学を勧めグループホームの役割や制度に関する説明を行い納得を頂いた上で契約を締結している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から利用者様の声には耳を傾け、改善の必要な情報は日誌やミーティングの場において検討し、改善するように努めている。	運営推進会議への利用者・家族の参加の他、家族会を発足させ、意見・要望を出してもらっている。面会時や日常の会話時等でも、あらゆる機会をとらえて利用者・家族から要望等を収集し、ミーティング等で検討し、改善をするなど運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は、毎月の勉強会、個人面談で職員の意見を聞くと共に、出された意見を運営に反映している。	毎月給与明細書を手渡す際に、管理者は職員との個人面談を行っている。ここで得られた意見等により、業務の手順等具体的な改善となったものもあり、職員の意見要望の収集、運営への反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の日頃の努力や具体的な実績、勤務状況等を把握し、職員のやりがいや向上心を持って働けるように対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で外部講師を招いた講習会を開き全職員が参加している。外部研修を受けた職員は社内研修の場で発表の機会を設けている。また、研修を受けた職員は研修レポートを提出する事でスキルアップを図っている。職員の能力に応じ、ヘルパー講習や認知症実践者研修の受講をしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内のネットワーク会議や介護支援専門員連絡協議会では同業者と研修を通して交流を図っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前は利用者、職員がどのような環境で生活されているか施設見学、体験利用を勧めております。サービスを導入するに当たって本人、ご家族様の気持ちを受け止めて職員が安心して話ができるよう担当者は特に傾聴に心掛けてます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	同上		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントの時点で緊急性の高い場合は必要に応じてすぐにサービスに結び付けたり、利用者が個別に必要とする他のサービス利用上も含めた対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事や役割を探し、残存機能を引き出すよう関わっており、利用者様を見る目を高める技術を身につけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られてた時は一緒にお茶を飲んでいただき、ご家族様から得た生活歴から本人を支えて行く関係作りに努めている。		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られてた時は一緒にお茶を飲んでいただき、ご家族様から得た生活歴から本人を支えて行く関係作りに努めている。	希望により、近くの鷲子山上神社やお寺等に出掛けたり、馴染みの美容室や床屋に送迎している。兄弟や地域の方及びボランティア等からの情報も得て、利用者が大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れない支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席の配置（話の合う人同士等）を考え、少しでも生きがいのもてるような支援をしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了後も出来る事があれば相談、支援の協力の意志をご家族様に伝えるなどしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中からニーズを把握し、本人の希望、意向の把握に努めている。職員は本人家族との関係を築き馴染みの関係から利用者の思いを把握し、本人本位の対応を行っている。	日々のかかわりの中から、利用者本人の希望や意向を把握している。声かけに対する目の表情など個別に対応しているときに意向が示されることが多いので、職員は担当制にして意向の把握と本人本位の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人、家族から得た情報を基に本人の生活歴を把握し、入居後の生活が安心して送れるように心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の心身の状態、残存能力を把握し、その日の状態に合った過ごし方をししている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者がそれぞれアセスメントし本人、家族の意向を反映させ、ケース担当者がカンファレンスで検討する。	計画作成担当者がアセスメントを行いケース担当者や看護師などを交えてカンファレンスし利用者、家族の意向を反映させた介護計画を作成し、家族の確認を得ている。定期的な見直しのほか、職員ミーティングなどで確認しながら利用者の状況に合わせて随時見直ししている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌や個別介護日誌に毎日の様子を記録しミーティングやモニタリングで介護計画を見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人のニーズにより対応できるよう外出の機会を多く設けたり、他施設との入所者同士の交流も行っているが、ボランティア等来所していただいて今後可能性を検討していきたい		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	各種ボランティア（語りべ、フラダンス、ハーモニカ、日舞等）の受け入れを積極的に行い交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院は家族対応にて受診をお願いして家族が通院対応できない時は職員が同行することもあります。月に1回の往診もしています。	基本的に利用者及び家族の希望するかかりつけ医での医療を継続している。通院介助は家族対応だが、家族が困難なときは職員が対応している。メモ等で情報の交換を行っている。また協力医の往診もあり、適切な医療受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化、異常の早期発見に努め家族、主治医に連絡、相談している。また、緊急時の連絡体制も整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、ご家族様より状態確認や、面会時は病院関係者と情報交換を行っている。退院に向けてのカンファレンス得た情報をミーティングにおいて情報交換を行い早期の受け入れ態勢を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期については家族・本人から、お元気なうちにに話し合って出来る限り、希望に沿うようにと考えています。	重度化や終末期に向けた支援も行うことを職員に周知し、この方針を家族にも伝えている。家族から希望も出ており、今後、希望に沿った支援が行なえるよう、24時間いつでも連絡できる協力医等医師の協力を得ながら個々の利用者家族と話し合い、事業所全体で取り組んでいくこととしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が対応できるよう救急法の研修や避難訓練を行っている。AEDを設置し使い方を訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練時には消防署の方に来て頂き訓練を行っている。年2回の消防訓練を計画しています。地域の方にも参加を呼びかけ2名の方より連絡がありました。	年2回、消防署の協力を得て、避難訓練を行っている。夜間等職員の手薄な時間帯の訓練はやっていない。地域地域の人に広報で訓練への参加を案内したところ、手ごたえがあった。非常用食料等の備蓄はしていない。	職員体制が手薄になる夜間想定訓練の必要がある。近くの住民にも引き続き訓練への参加を呼びかけ、いざというときの地域の協力体制の構築に取組まれるよう期待したい。また水や非常食の備蓄も期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症であっても1人ひとりを尊重し尊厳を損なわない接し方に努めている。	利用者の経歴、元職業等の情報を頭に置きながらも丁寧な言葉かけを行い、一人ひとりの人格や誇りを尊重するよう心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が判断するのではなく本人が話しやすい雰囲気を作り、問いかけをしながら決定している。意思疎通ができない方は表情やしぐさから察するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースに合わせて起床、食事、就寝などを行っている。出来るだけその時の状況に合わせた対応をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の整容と服装は清潔に心掛けている。本人の希望を聞きながら服装などを決めている。要望があれば理容院への取り次ぎも行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	事業所内の農園で利用者と野菜の収穫をし、その後、職員と共に調理の下準備や食事を楽しんでいます。その後の片づけも役割を決めて行っています。	利用者の希望を聞きながら献立を作り、事業所内農園のから一緒に野菜収穫し、可能な利用者に包丁を持っていただき、職員と食事を作っている。検食者1名以外の職員はお弁当を持ってきているが、一緒に食事の時間を楽しんでいる。後片付けも利用者と職員で行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の嗜好やアレルギー、加糖制限、水分制限などを把握した上で食事や水分を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者一人ひとり口腔状態を把握し毎食後、口腔ケアに誘導している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者に合わせて食事の前後や来苑時、帰宅時など、トイレに誘導している。	利用者の排泄パターンを把握し、食事の前後や就寝、起床等利用者の様子を伺いながらトイレ誘導等を行い、排泄の自立にむけた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分不足にならないようにしたり、運動をしたり、便秘予防に努める。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前にバイタルチェックをし、体調を確認し安全に気持ちよく入浴して頂けるよう、入浴剤を使用したり季節によってはゆず湯や菖蒲湯などで季節を感じて頂ける工夫をしている。	午前中に週3回は入浴できるようにしているが場合によっては午後の入浴も対応している。体調を確認しながら、入浴剤や季節の菖蒲湯やゆず湯などを用意して楽しんで入浴できるよう努力している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は散歩や余暇活動を取り入れ夜間安眠出来るようにしている。眠れない利用者様にはホットミルクやテレビを観たり話を聞き安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬を防ぐため、内服薬を個別の箱に朝昼夕に分配している。与薬時には2名の職員が確認を行い手渡しで飲み込みを確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握し、調理、洗い物、洗濯畳などその人の得意な事を行って頂いている。タバコの好きな人は、場所を決めて自由に吸えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に沿って外出しているとは言えないが、かかりつけの床屋等へは取り継ぎを行っている。施設の行事では、外食や季節毎に外出し、季節感が感じられるように取り組んでいます。	花見や外食等季節にあわせ、外出する機会を作り支援している。利用者それぞれの外出希望（床屋、通院、家族交流等）には送迎など便宜を図った対応をしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来る方には自己管理してもらっています。難しい方は施設で預かり必要なものがあれば買うようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも使用出来るように案内しています。家族や知人から電話の取次ぎはその都度対応している。自らかけられない場合は職員が代行している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内は利用様と季節を感じられる作品を作り飾って楽しんでいる。居室、ホール、廊下にはいつも季節の花を生け利用者様が季節感が持てるように配慮している。	元小学校校舎の利用のため、単調な空間となりがちな廊下等を居室の配置で工夫し変化をもたせている。食堂ホールには利用者の作品等を飾り潤いを持たせている。また季節の花等共用空間に飾り、季節感をかもし出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関や廊下には休憩できる椅子、テーブルを置き一人になれたり、友達、家族や知人等と思い思いに過ごせる居場所作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には本人の使い慣れた寝具、湯のみや茶碗などを持ち込んでもらえるようにご本人やご家族に声をかけております。	居室にはベッドと衣装ケースが備え付けであるが、入所時に利用者の使い慣れた思い入れのあるものを持って来てもらうよう話しており、居室内はシンプルにできている。毎日昼ごろに職員が掃除し、室内は清潔に保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日常生活の移動や見守り、声かけを行い、出来る限り自立した生活が送れるように支援している。利用者個別の必要性に応じ掲示物（夜間居室の間違いがないように表札を掲示）している。		